









会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様



令和4年5月16日

出張者	稗貫 秀次 			
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都		
期間	出張日数	令和4年5月11日 から 令和4年5月12日 まで	1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	「第13回教育総合展EDIX東京」への参加 ・特別講演「GIGAスクールのこれから」 ・展示会 各社視察		
備考	資料等は別添のとおり		

会派代表	経理責任者	会員
		

政務調査報告（セミナー）

1. 会派名：開政会

2. 研修開催概要

(1) 日時：2022年5月12日（木）10：00～11：30

(2) 場所：東京ビッグサイト（東京都江東区有明3丁目11-1）

3. 視察者：稗貫 秀次

4. 研修内容：第13回教育総合展 EDIX 東京

(1) 特別講演「GIGA スクールのこれから」

講師：文部科学省 初等中等教育局 就学支援・教材課

GIGA スクール推進チームリーダー（情報教育振興室長）

水間 玲 氏

(2) 展示会 各社の視察

経済産業省、(株)アーテック、京セラ(株)、ベンキュージャパン(株)、
サンワサプライ(株)、さつき(株)、(株)ぎょうせい、(株)サインウェブ、
NOVA ホールディングス(株)

5. 所感

GIGA スクール構想とは、義務教育段階にある小学校・中学校における ICT 環境を整備する中で、児童生徒用のパソコン端末一人一台を貸与し、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、授業で活用することで、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させること」とされている。

しかしながら、この構想にも、メリットとデメリットがあり、それらを理解したうえで、保護者の協力も得ながら、運用・活用していかなければならない。学ぶ側の子どもたちへの正しい情報提供と教える側の教師の資質にも関係してくるため、未来を見据え、社会環境の変化にも順応していけるように転換していくべきであると感じた。









また、展示各社のブースを視察してきたが、各社様々な特徴の最新鋭の機器を備えていたが、導入する場合のコストなど、様々な観点から検討し、先進自治体の事例を参考にすべきである。技術の進歩は、目覚ましいものがあり、良くも悪くも隔世の感を抱いた視察であった。

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様



令和4年11月10日

出張者	清水 隆吉 			
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	京都府		
期間	出張日数	令和4年11月6日 から 令和4年11月9日 まで	3泊4日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	<ul style="list-style-type: none"> ・予算書の読み方と経営課題を理解し議会審議に活かす ・議会広報の変化と進化—情報のアウトプット— 		
備考	資料等は別添のとおり		

会派代表	経理責任者	会員
		

政務調査報告

1. 会派名：開政会

2. 研修開催概要

(1) 日時：2022年11月7日（月）10：00～13：00、14：00～17：00

(2) 場所：京都経済センター（京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地）

3. 視察者：清水 隆吉

4. 研修内容：予算書の読み方と経営課題を理解し議会審議に活かす

(1) 実例とともに理解する予算書の読み方

① 予算書についての概要説明

- ・ 予算編成の基礎
- ・ 予算査定の視点

② 予算書における基礎事項の解説

- ・ 予算の原則と予算の内容
- ・ 歳入のチェックポイント
- ・ 歳出のチェックポイント

③ 実例を用いた予算書の読み方の解説

(2) 地方自治体の経営課題と予算審議の要点

① 予算書のポイント—地方自治体を取り巻く環境変化

- ・ 地方自治体に直面する課題
- ・ 公共施設等のマネジメント
- ・ 公営企業のマネジメント

② 決算を踏まえた予算審議のポイント

- ・ 決算を踏まえた予算審議
- ・ 近年の財政非常事態の原因と財政健全性
- ・ 予算審議のポイント

③ 実例をもとに予算審議の着眼点を考える

5. 講師

横田慎一公認会計士事務所・税理士事務所 所長 横田 慎一 氏

6. 所感

議会審議に際し、ある制度が始まったりすると議員は矢継ぎ早に質問するが、年月が経つとあまりしない傾向にある。継続して質問していくことで職員も意識をする、と講師は話す。

各課からの予算要求の点では、各課が事業者からの営業を受けて予算要求が行われるケースもあり、その点では、一事業者が提示した参考見積が予算要求額になることも多く、特命随意契約が前提の予算になっていることがあり注意が必要とのこと。業者が不必要なものまで予算に組み込まれている可能性があることから仕様書を取り寄せるなどして無駄な予算を減らすことができるとの話を伺った。財政課によるヒアリング・査定の方法では経済性（最小の経費で実施されるか Ex: 派遣講師 1 人当たりの費用）、効率性（最小の経費で最大の成果やサービスが期待されるか Ex: 研修 1 回あたりのコスト）、有効性（目的に見合った成果が期待されるか Ex: 研修 1 回あたり受講者数）の三点について述べていた。後半は実例を用いた予算書の読み方の解説から理解を深めるものとなっていた。新規事業が注目されがちだが、継続されている事業であるから大丈夫ではなく、継続事業であるからこそ今の時代に即したものとなっているかをも注視し、市民福祉の向上のため議論を深めたい。



政務調査報告

1. 会派名：開政会

2. 研修開催概要

(1) 日時：2022年11月8日（火）10：00～13：00、14：00～17：00

(2) 場所：京都私学会館（京都市下京区室町通高辻上ル山王町561）

3. 視察者：清水 隆吉

4. 研修内容：議会広報の変化と進化—情報のアウトプット—

(1) より効果的な編集レイアウト

① 広報広聴の価値を上げる

- ・ 目標と計画を「立てる」
- ・ 地域課題を共に考える広報
- ・ 広聴企画を掘り下げる

② 広報コンテンツの新潮流

- ・ 表紙・特集の魅力化
- ・ コンテンツの質を高める
- ・ ビジュアル・エディティング

③ Web・SNSをつなぐ広報へ

- ・ 「見る」「聴く」広報の強化
- ・ 注目サイトとコンテンツ
- ・ メディアの特性を生かす

(2) 議会広報クリニック—どこを改善すれば、もっと良くなる？—

① 広報紙づくりの基礎知識

- ・ 企画・編集力で差をつける
- ・ 原稿づくりのポイント
- ・ 目を引くレイアウト

② 広報クリニック

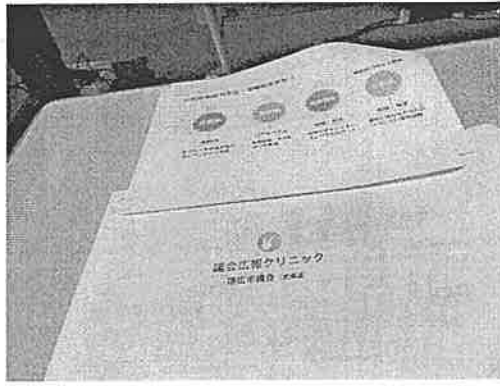
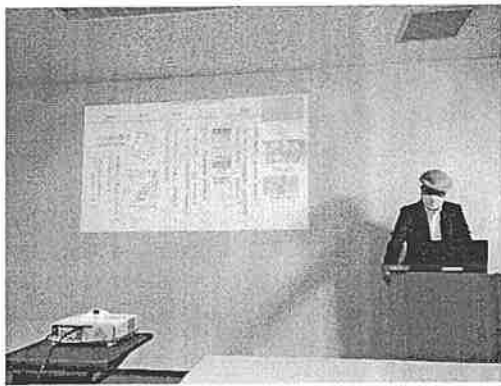
- ・ よくできている点
- ・ 改善点
- ・ 全体評価とアドバイス

5. 講師

エディター・広報アナリスト 吉村 潔 氏

6. 所感

帯広市議会では、年4回開催される定例会ごとに市議会だよりを発行している。定例会の概要、代表・一般質問、予算・決算の審議内容など、議会の様々な活動を伝えている。今期に関しては議会だより編集委員長を務めていることからより調査研究を深めるためセミナーを受講したものである。講師は、議会広報は「わかりやすく」とはよく言われるが、「興味深く」が大事であると説く。議会が執行側にどのように提起しているのかが伝わるようにすることや、行政広報との差別化も意識するべきである、と言う。午後からは実際に発行している議会だよりを事前に送付し、クリニックと称してどのようにしたらもっと良くなるか意見を伺った。帯広市の議会だよりは質問者の名前にルビがなく、間違えやすかったり、読み方が独特であったりするのでルビは必要である。本市では表紙に苦慮していることを講師に伝えると、地元の高校の写真部や美術部、アート系とのコラボレーションなどで若年層が見たくなる工夫をお聞きすることができた。現在の姿かたちが完全ではない、と思う中でどのように変えていくか、どのように議会広報として公正を担保し、興味深く見ていただけるようにできるか、今後も調査研究を進めてまいりたい。











会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様



令和4年11月20日

出張者	清水 隆吉 			
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都		
期間	出張日数	令和4年11月16日 から 令和4年11月16日 まで	泊 1 日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
③要請・陳情活動費	・農林水産省 ばんえい競馬 脆弱性への対応と体制強化への陳情		
備考			
資料等は別添のとおり			


会派代表	経理責任者	会員
		

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様



令和4年11月20日

出張者	稗貫 秀次 	印	印	印
氏名		印	印	印

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都		
期間	出張日数	令和4年11月16日 から 令和4年11月17日 まで	1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
③要請・陳情活動費	農林水産省 ばんえい競馬 脆弱性への対応と体制強化への陳情		
備考			
資料等は別添のとおり			

会派代表	経理責任者	会員
		

政務調査報告

1. 会派名：開政会
2. 日時：2022年11月16日（水）15：25～16：15
3. 場所：農林水産省（東京都千代田区霞が関1-2-1）
4. 当方出席者：稗貫 秀次、清水 隆吉、
（同席）ばんえい競馬馬主協会 小森 唯永 氏
5. 内容：ばんえい競馬 脆弱性への対応と体制強化への陳情
6. 先方出席者：農林水産省大臣政務官 参議院議員 藤木 眞也 氏
農林水産省畜産局競馬監督課 担当者

7. 農林水産省 藤木事務所にて 議事録

協会：前日、橋本聖子事務所にも挨拶に行き説明し、調査など必要との言葉があった。

先方：農水省より話は聞いている。ばんえい競馬の脆弱については認めており、強化が必要と考えている。どういう風に進めていくのが良いか。

協会：人員が他の競馬場と比べて破格に少ない、正職員が7人。

先方：自分も人員資料を見て驚いた、ここに目を向けて考えねばならない。何か問題があった際の対応は大丈夫か、問題と感じた。

協会：人を増やすとコストもかかる。現在、民間委託の職員が20数名おり、競馬の運営に深夜遅くまで仕事をしている。そのため、少ない人数でもやっていけており、脆弱とみられるが、回っているのが現状。ただし、問題や不祥事が合った時の対応のために人を入れて欲しい。主催者に対し、馬主、調教師、騎手なども不満を持っている。これまで、主催者に独善的な者がいたと考えている。現在は、多少改善されつつあるが、話し合いなどの場も設けてもらえない。以前は、主催者の態度も悪く話し合いにならなかった。帯広市が90%の馬を見ている獣医に一切支援をせず、10%しか見ていない獣医に7700万円もの補助金を支援している。大半の調教師・馬主が藤木先生にお願いしようと思ひ接見をお願いし、代表としてきた。ある程度改善されつつあるが、馬主・調教師の要望を聞いてもらいたい。今年道営競馬よりばんえい競馬の売り上げが良い。帯広市議会でも私たちの要望を議題としているが、市側はのらりくらりの返答。馬主協会が、市側が全く補

助しないもう一方の獣医にレントゲンや血液検査装置などを購入し与えている。市は財政・基金があるのに使ってくれない。笠松競馬みたいな不祥事対応用と言っているが、エサ代などの高騰の今こそ使ってほしいと考えている。財政調整基金 15 億積んでいるうちの 3~5 千万は出せないと言い、今年 9 月議会でまた 10 億積んだ。ばんえいに投資すると言っているが、必要なところに金をまわしていない。上位機関から来ていただき、改革をして欲しい。職員も 1~4 年勤続が多く詳しい者がいない。

先方：人事権は帯広市にあるので、農水が直接入ることはできないが、問題はあり動いている。

先方：今年の 3 月・6 月に米沢市長と話した。人数も少ないし、詳しい者がいない。馬を蹴った、厩務員の不祥事もある。専門の職員を張り付けて、経験を積んだ人が判断できるよう、また、人を育てることが必要。今年 6 人から 7 人に増員したが、4 人は今年来た人。他でこのような体制のところはない。今、売り上げが良い時に体制を作るよう、米沢市長に依頼している。

協会：ばんえいは、昔 4 市で開催していたが潰れた。何とか残したいと帯広開催で残った結果が今。組織の強化が必要。少なくとも 6~7 年経験を積んだ者、長くて 10 年の経験者がいないと競馬の運営が適切に実施できない。馬の追い方や判定するのも経験がないとできない。そういう人材を育てて欲しいし、ダメなら外部からでも入れて欲しい。大井でも良いし帯広以外の人に、一度ばんえい競馬を見てもらい意見書などでも出してほしい。そして、改善するところは直し良くしていきたい。1 番はファンが安心してばんえい競馬にかかわれるようになることである。

先方：まずは組織をどのように強化するか、米沢市長に出してもらい、それに対して助言する。公営は道営、ばんえい、金沢競馬とあるが、金沢競馬はばんえいより売り上げが少ないが、石川県の運営が 15 人ほど張り付いている。

先方：帯広市も農水省から言われているので、まず改善提案を待つ。来年の 4 月まで人事もあるので。

先方：米沢市長も危機感があったので期限は切っていないが、遅いと言っていく。脆弱性を直さないといけない。

協会：人を増やす。最低でも 10 年クラスが 3~4 人いないと、何かあった際の対応ができない。実際、帯広市も競馬を簡単に考えていたのでは。だから 15 年もの人が独善的になった。今年も 1 回しか振興室長との話し合いの場が持っていない。設備の導入もずっと随契、公開入札もやっていない。調教師の要望を聞かず高価な金額で、使い勝手の悪い設備が入っている。市が厩務員の採用を行うが、調教師より採用時に調べて（素行など）くれと言われている。

先方：組織の風通しが悪いので、主権者側の意見もあるだろうし、話し合わないと良く

ならない。

当方：改善の余地が一杯ある。同じ方向を見ないといけない。議会で市長は現状を把握して検討をしていくと言っているので引きつづき議題としていく。

協会：改革案については、市は馬主協会や調騎会には何も言ってこない。

先方：地全協に要請があれば派遣という形でも2~3人入ってもらうのが良いのではないか。組織が良い方向に廻るまでの間見てもらう。

先方：地方競馬全国協もぐるぐる回っているので常駐は難しいが、何らかの対応をしていきたい。

7. 所感

ばんえい競馬の脆弱性への対応と体制強化への陳情として農林水産省に赴いた。農林水産省大臣政務官の藤木氏、農林水産省畜産局競馬監督課にしてもばんえい競馬の脆弱性は認識しており、どうにかしなければいけない、どの考え方では一致していた。ばんえい競馬においては、馬を蹴ったとの悪い方向での話題となってしまっている。より、公正なものとなるよう実施していくことはもとより、今まで以上に厳しい目をもたれていることを自覚していかなければならない。この度は脆弱性、体制強化を主なテーマとして論議したが、生産者や持続性、継続性にも課題がある。ばんえい競馬は世界唯一のものであり、十勝帯広における観光地の主要的なものでもある。どのように継続性を持たせて成長を続けていけるのか、今後も調査研究を進めてまいりたい。



